



Phenotypic characterization of perivascular myoid cell neoplasms, using myosin 1B, a newly identified human pericyte marker

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 浜松医科大学 公開日: 2018-05-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 目黒, 史織 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/3336

論文審査の結果の要旨

周皮細胞は微小血管の血管内皮を外側から取り巻く血管壁細胞で、微小血管よりも径の大きな血管における血管平滑筋細胞に相当する。現在、周皮細胞マーカーはいくつか知られているが、ホルマリン固定パラフィン包埋ヒト組織において染色可能で有用なマーカーはない。本研究の目的は、こうした実地臨床に用いられる組織染色に利用可能な周皮細胞マーカーを同定すること、および同定されたマーカーを用いて血管周囲性腫瘍の特徴づけを行うことである。

はじめに、マウス肺から周皮細胞と線維芽細胞、および大動脈から平滑筋細胞をフローサイトメトリでソーティングし、個々の RNA をマイクロアレイ解析し、周皮細胞に特異的な候補を選出した。さらに免疫組織化学的検討を行い、新規周皮細胞マーカーとして myosin 1B (MYO1B) を同定した。ホルマリン固定パラフィン包埋ヒト皮膚材料において、MYO1B と平滑筋マーカーである high-molecular weight caldesmon (h-CD) の染色性を組み合わせることにより、血管壁細胞は、 $MYO1B^+ h-CD^-$ である周皮細胞、 $MYO1B^- h-CD^+$ である血管平滑筋細胞、 $MYO1B^+ h-CD^+$ である、周皮細胞と血管平滑筋細胞の中間的な免疫組織化学的特徴と血管径を有する血管壁細胞に分類可能であった。

次に、血管周囲性腫瘍 54 例において MYO1B と h-CD の免疫染色を行った結果、2 つのマーカーの染色態度において、1) 血管平滑筋腫は血管平滑筋細胞の特徴を有し、2) グロームス腫瘍は中間的な血管壁細胞から主に構成され、3) 筋周皮腫は血管平滑筋細胞や中間的な血管壁細胞から構成され血管平滑筋腫と鑑別が難しい例が存在することが判明した。

以上の結果から、MYO1B は新規周皮細胞マーカーとして有用であり、種々の組織学的形態を示す血管周囲性腫瘍の発生母地や分化を理解する上で有用なマーカーとなり得ることが示された。

以上により、本論文は博士(医学)の学位の授与にふさわしいと審査員全員一致で評価した。

論文審査担当者

主査 戸倉 新樹

副査 梶村 春彦

副査 三澤 清